

ブライダルコーディネート論におけるリレー講義と 産学連携のトライアル報告

白坂 文

SHIRASAKA Aya

今日の結婚式（披露宴も含む）は多様化し、実に様々な形態がある。ホテルや結婚式場はもちろん、ハウスウェディングやレストランウェディングといった自分達の個性を活かせる結婚式のスタイルがあり、新郎新婦自らがゲストに対してサプライズや感謝の気持ちを表現するような、オリジナリティの高い結婚式が主流となってきている。そのため新郎新婦の幅広いニーズに応え、最高の結婚式をプロデュースするブライダルコーディネーター（ウェディングプランナーともいう）の存在が注目されている。

ファッション専攻では、将来ブライダル業界へ就職希望の学生もいることから、ブライダルに関する実践的な知識を修得することを目的とし、2006年よりブライダルコーディネート論を導入し、各専門分野の講師によるリレー授業を行っている。

また、産学連携の試みとして、神戸メリケンパークオリエンタルホテルにおいて実際にホテルウェディングを体験させてもらい、学習の成果をウェディングプランにまとめ、結婚式の現場で活躍されているウェディングプランナーの方に提案し、感想を頂いた。

本稿では専門講師によるリレー授業と産学連携の成果を報告する。

キーワード:ハウスウェディング、レストランウェディング、ブライダルコーディネーター、ウェディングプランナー

1. はじめに

筆者が担当しているブライダルコーディネート論（以下、本授業）では、ブライダルに関する幅広く専門的な知識を修得するため、「ブライダルビューティ」、「ブライダルフード」、「ブライダルフラワー」、「ブライダル衣装」といった4つの専門分野を設け、その専門分野の講師によるリレー授業を行っている。

「ブライダルビューティ」の分野では、ファッションデザイン専攻の森下非常勤講師にご協力頂き、花嫁にふさわしいブライダルメイクの講義と、指輪の交換で花嫁の手元も注目されることから、ハンドケアやブライダルネイルの実習を行った。

今回初めての試みとして、「ブライダルフード」の分野では、家政学科食物栄養専攻の石野非常勤講師

にご協力頂き、ウェディングケーキの歴史や変遷、流行などの講義と、実際にウェディングケーキのデコレーション体験を行った。

「ブライダルフラワー」と「ブライダル衣装」の分野では、筆者が授業を担当した。「ブライダルフラワー」ではウェディングブーケについての講義とブーケの制作実習を行った。「ブライダル衣装」では、ドレスのシルエットと種類について講義し、自分の着てみたいカラードレスとウェディングドレスのデザイン、ドレスにマッチする小物の合わせ方の講義を行った。

このように各専門分野の講師から講義を受け、学生達は自分の理想とするウェディングプランを企画・立案し、1冊のオリジナルのウェディングプラン（以下、プラン）をまとめた。このプランを実際に

神戸メリケンパークオリエンタルホテル（以下、ホテル）のウェディングプランナー（以下、プランナー）の方々に見て頂き感想をうかがった。

2. 方法

調査期間：平成 23 年 4 月 7 日～7 月 21 日（前期 15 回授業）

調査対象：夙川学院短期大学家政学科ファッション専攻 ブライダルコーディネータ論受講生 15 名

手続き：本授業開始から終了までの経過と、各専門分野の講師によるリレー授業から修得した知識を活用し、学生がオリジナルのプランを制作する。そしてこのプランをホテルのプランナーに提案し感想を頂き評価した。

3. 授業の展開と考察

3.1 ブライダルコーディネータ論の授業形態

本授業のスケジュールは下記のとおりである。

1回目	ガイダンス
2回目	ブライダルの形態
3回目	ブライダルスケジュール
4回目	ブライダル衣装
5回目	
6回目	ブライダルフラワー
7回目	
8回目	ブライダルビューティ
9回目	
10回目	ブライダルフード
11回目	
12回目	ブライダル施設の見学(学外授業)
13回目	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
14回目	オリジナルウェディングの企画・立案
15回目	ウェディングプラン制作

3.2 プランのテーマと内容

授業の最終回に完成させるプランのテーマは、「自分の理想とするウェディング」で学生が自分自身の理想とする結婚式をプロデュースする。プランの内容は、プロポーズされてから結婚式・披露宴当日までの期間にどのようなスケジュールでどのような準備

内容を段階的に行うかを時系列にまとめる。

先ず結婚式の日取りを決定する。日取りは 2 人の記念日や誕生日、クリスマス、バレンタインデー、また古代中国の陰陽五行説に基づいた、吉凶を占う「六輝」も参考に自分の希望とする日取りとさせた。

次に、その日取りに向けどれくらい準備期間を設けるか検討させた。講義の中では 8 ヶ月間で結婚準備を行うスケジュールを例に挙げ解説しているが、1 年以上じっくり準備期間を設けたいと考える学生、半年ぐらいである程度勢いにまかせながら準備したいと考える学生様々である。

結婚式までの流れは①「プロポーズ」→②「親への挨拶（挙式 8～6 ヶ月前）」→「結婚式場を探す（7～6 ヶ月前）」→③「婚約指輪購入（7～6 ヶ月前）」→④「結納・顔合わせ食事会（6～5 ヶ月前）」→⑤「結婚式場決定（6～4 ヶ月前）」→⑥「衣装・ブーケ決定（5～3 ヶ月前）」→⑦「披露宴の食事内容・引き出物等アイテムの決定（5～4 ヶ月前）」→「結婚指輪購入（4～3 ヶ月前）」→⑧「招待状のデザインとゲストのリストアップ（3 ヶ月前）」→「招待状投函（2 ヶ月前）」→「披露宴のプログラム・演出決定（2～1 ヶ月前）」→⑨「ブライダルエステ（1 ヶ月前～）」→⑩「結婚式・披露宴当日」となる。プランには①から⑩の場面の準備内容を入れることとし、様々な授業の中で得てきた知識をフルに活用し、また自分なりにより深く掘り下げ研究し、雑誌の切抜きをコラージュしたり、自分でイラストを描いたり、レースやリボンで飾ったりと、自分の理想の結婚に向けたオリジナルプランを完成させた。

学生が制作した 15 作品のプランの中から、以下 4 作品の事例を紹介し評価する。

【事例①「GOLDEN WEDDING」I・Nさん】



—ウェディングプランナーからの感想—

- ◇ とにかく「かわいい！」 カラースキームがピンクとしっかり打ち出しており、ピンクに統一されている点が新婦のこだわりなんだと参列者にもわかりやすい！例えば、参列者にも必ず何か1つピンクのものを身につけてきてもらうなんて企画があってもステキ。
- ◇ こうやって見ると色にはいろいろな意味が込められているので、「ピンク」⇒愛・幸福感を参列した皆様にも味わって頂きたいということをパーティの中で是非紹介したいと思った。
- ◇ 明確にカラースキームを「ピンク」と決めているので、デザートブッフェやテーブルコーディネート、ケーキやブーケなどしっかりとカラーテーマにそった選択ができそう。
- ◇ お色直しにかかる時間まできちんと記載されており、こういったことは普通の新郎新婦は知らないもので、情報として知らせてあると喜ばれそう。お色直しにこんなに時間がかかるときちんと最初からわかっていたら、たとえば写真は事前にとっておくなどの対処もできる。
- ◇ 新婦についての知識も深く、エクステのほうが泣いても大丈夫とかチップはとれやすいなど、本当によく勉強している。新婦にとってよい相談相手(プランナー)になれそう。

<評価>

I・Nさんのプランはページ全体がピンクでまとめられており、レースのピンクのリボン結び、各ページにちりばめているところが立体的となって面白い。非常に女の子らしいかわいらしさ満載のプランである。

カラードレス、ブーケ、会場の装飾・装花、ウェディングケーキ、ゲストに振舞うデザート…とにかく全てがピンクで溢れている。一般的に結婚式や披露宴にピンクを使うことは多いが、ここまでピンクにこだわったとは驚きである。

プランナーから『参列者にも必ず何か1つピンクのものを身につけてきてもらうなんて企画があってもステキ』や、『色にはいろいろな意味が込められているので、「ピンク」⇒愛・幸福感を参列した皆様にも味わって頂きたいという意味が込められているということをパーティの中で是非紹介したい』との意見を引き出せたことは大変よかった。

またブライダルメイクの講義で得た知識として、「付けまつげ」より「エクステ」の方が涙に強いことや、「ネイルはチップの方がとれやすい」などのプチ情報は、若い彼女たちならではの経験からくる意見で、プランナーにとっても参考になる意見となっている。

【事例②「WEDDING HALLOWEEN 10.31」E・Yさん】



—ウェディングプランナーからの感想—

- ◇ 黒のレース使いや辛めのカラートーンがステキ。しっかりと自分(自分の好み)を持っている新婦の印象を受けた。
- ◇ 私たちウェディングプランナーが新郎新婦から商談(相談)をお受けする際、どんな雰囲気(演出)のパーティにしたいか、明確なイメージを持たれていない方が多いが、こういった「ハロウィン」→「仮装」という明確なテーマにこだわるといふパーティもあるんだなと衝撃だった。
- ◇ 「ハロウィン」というテーマにとことんこだわり、挙式日を10月31日というのは想像できたが、開始時間を666にちなんで、6時66分⇒7時6分という発想力の柔軟さに驚いた。ステキ！

- ◇ 仮装のウェディングパーティなど、新しいスタイルで話題を呼びそう。ただ、親御さんや親族などのまだまだ結婚式に対する堅い意識をもった層にとっては、少し抵抗がありそうなので、その点も配慮して、親御さんにとっても嬉しい、自分たちにとっても嬉しいスタンスにするためにもパーティを2部構成(親族系でしっかり食事会+友人系で1.5 次会スタイル)などにして行っても楽しそう。
- ◇ 全体的によく勉強されていると思います。出会ってからのストーリーや式当日までの流れもとてもリアルに表現できていますし、ケーキや引き出物の意味もしっかりと記されており、当たり前のように用意しているものにも、実はきちんと意味があり、知っているとなお楽しい気分になれますね。まだ何も知識のない新郎新婦にはこんなことも勉強になりそう。

<評価>

E・Yさんのプランのカラーテーマは一般的に多い白やピンクや赤ではなく、黒や紫のダークカラーを用いているところが非常に目を引いた。

クリスマスやバレンタインデーをテーマにした披露宴を行うことは多いが、「ハロウィン=仮装」をテーマにした披露宴は初めてで、目の付け所が面白いと感じた。本人も仮装が好きで、サプライズが大好きとのことである。一般的な結婚・披露宴より砕けたカジュアルなパーティを企画し、ドレスコードは「ハロウィンの仮装」というところは非常に斬新なアイデアと言える。プランナーも『仮装のウェディングパーティなど、新しいスタイルで話題を呼びそう』と驚きの感想を述べている。

お色直しではハロウィンをイメージした黒とオレンジ、紫のカラードレスに着替え、ゲストの前で自らピアノの生演奏を行うというサプライズを企画している。ゲストと近い位置で盛り上がりたいという考えで、自分のスタイルを前面に出したプランは、花嫁参加型の新しい披露宴の提案といえる。

【事例③「Happy Wedding」受講生 S・Mさん】



—ウェディングプランナーからの感想—

- ◇ まさに正統派ウェディング！という感じの、白・ピンク・赤を貴重にしたカラーコーディネートで全体的に清楚で優しい印象を受けた。親御さんや上司に必ずうける結婚式になりそう。
- ◇ 表紙の4箇所レース使いのリボンが立体でつけられており、とてもインパクトがある。わくわくする表紙だ。
- ◇ 二人のパーティまでのスケジュールストーリーが出会いからしっかりとイメージできている点を見て、改めて二人のストーリーはパーティの打ち合わせからではなく、ここから始まっているんだと考えさせられた。私たちプランナーも反省点だと思った。もっと二人の出会いやプロポーズといった部分からクローズアップしたパーティを提案していきたいと考えさせられた。
- ◇ リゾートウェディングがしっかりと表現されており、リゾートならではのゆったりとした開放感あふれる気分、新郎新婦だけでなく、お招きするゲストの方々にも満足してもらえそう。新婦の大好きな赤というカラーテーマのパーティがとてもハートフルなイメージに完成されている。
- ◇ ウェディングケーキが3段と豪華で南国のフルーツがたっぷり味はもちろん、見た目も楽しめそう。またゲストに振舞うクロカンブッシュは新婦自身で作り、ちんすこうというところがオリジナルで面白い。
- ◇ ダイヤモンドの「4C」についても勉強されており、新婦にとってこういったジュエリーも結婚という行事の大切な一部と改めて実感した。
- ◇ 二人が参列者をきっちりとてなしたいという気持ちが随所にみられた。(一人ひとりに手書きのカードを

添えたり、引き出物のラッピングを男性用/女性用と変えるなど…)

<評価>

S・Mさんは沖縄出身ということで、沖縄にこだわり、沖縄らしさを表現したりリゾートウェディングのプランを制作した。よって会場選びにはかなり時間をかけ吟味し、沖縄の美しい青い海と青い空が一望できる教会をセレクトしている。そんな美しい風景をゲストにも十分楽しんでもらいたいと、一面ガラス張り景色を楽しめる披露宴会場を選んでいるところもゲストへの配慮である。

衣装についてもこだわりがあり、青い海と空に映える色として真紅のカラードレスをお色直しで着る予定としているが、沖縄以外から来てもらうゲストに対し、もう一着「琉装」という沖縄独特の婚礼衣装を着てゲストに沖縄らしさを感じてもらいたいと考えている。

またブライダルフードの講義で世界のウェディングケーキを学んだ時にアイデアが浮かんだとのことであるが、ウェディングケーキとは別に、フランスの伝統的なクロカンブッシュのシュー部分を沖縄銘菓のちんすこうを用い、会場でゲストに振舞いたいというのも非常に面白いと感じた。沖縄の良さをゲストに十分満喫してもらえるプランの提案となっており、「〇〇出身」との部分に前面にアピールしたプランが新しいと感じた。

【事例④「Natural WEDDING」受講生 F・Mさん】



—ウェディングプランナーからの感想—

- ◇ 表紙のカラーイラストから最後のページまで、ナチュラルカラーで統一されており、新婦のこだわりが『緑や木といった自然的モード』と表現できている。
- ◇ スケジュールのほか、「Meeting」というページがとて印象的。結婚式では、実は打ち合わせを進めて

いくごとに新郎新婦やお互いの家族のスタンスの違いなどが少しずつ生じて、よくケンカされることも多いのが現状なので、お互いの結婚式に対するイメージや求めるものを事前によく話し合っておくことはその後のためにとても大切。その点を理解してできている点にとっても驚いた。

- ◇ ジブリの世界というしっかりとしたテーマがステキ。よく「ゴージャスにしたい」「気軽にワイワイしたい」という漠然としたスタイルを希望されるゲストはいるが、こういったしっかりとしたこだわりテーマのポイントを決めることで、しっかりと軸をおいて今後の打ち合わせができそう。照明もオレンジ系、自然を感じる緑溢れる雰囲気です。挙式、参列者の服装はシンプルで・・・など、随所に肩肘はるような雰囲気のパーティではなく自然に・・・というテーマのこだわりが見える。
- ◇ ドレスデザインが袴元や長袖というデザインが新婦の清楚さを彷彿とさせる。レトロな雰囲気です。開場にもよく合いそう。

<評価>

F・Mさんのプランは自身の大好きな『ジブリの世界』が表現されている。教会は深い森の中の小さな教会をイメージしており、木材をふんだんに使用した木造タイプで、教会内部にも大きな木の鉢植えをいくつもセッティングし教会の中に森を再現している。アンティークなパイプオルガンの演奏で厳かに新郎新婦が入場してくるという設定はまるで物語りのようで、F・Mさんの強いこだわりが感じられる。

披露宴会場もナチュラルなウッドタイプのレストランを選び、そこにも大きな木の鉢植えを沢山セッティングし、トトロの森を再現するとのことである。2011年にイギリスのウィリアム王子とケイト・ミドルトンさんがウエストミンスター寺院で挙式したが、祭壇へ進む長いバージンロードの両側には多くの樹木が配された。このように教会の中にも樹木など自然をふんだんに取り込む提案も今後人気を呼びそうである。

またF・Mさんのジブリを再現する結婚式のように、自分の好きなアニメや映画のヒロインに変身できる披露宴というものも今後の新しい提案といえる。

4. まとめと今後の課題

本授業受講生のオリジナルプランをウェディングプランナーに提案し感想をうかったが、学生が提案したプランには、ピュアな心と夢がたくさん詰まっていた。当然学生のプランはプロのプランナーに比べると未熟で完成度も低く、知識や経験はプランナーの足元にも及ばない。しかし、そんな学生だからこそ「こんな演出は費用的に無理だろうな」とか「ゲストの親族にはどう思われるだろう」といった心配をよそに、とにかく「夢を形にしたい!」という思い切った提案ができたところが、逆によかったのではないかと考える。

また神戸メリケンパークオリентホテルの内匠陽子(たくみようこ)氏より、『式場選びをする新郎新婦の相談内容の一番は費用。ホテルのウェディングプランナーという立場では、新郎新婦の現実的な悩み(出費や出席者など)の解消が第一優先となり、お金の話から入ることが大半。

またチャペルや披露宴会場を紹介する時にも、先ずは写真を見せて説明。これは時間的ロスを無くすため。どうしても事務的な説明となってしまう、誠意や暖かみはなかなか伝わらない。

このようなプランをまとめたものがあれば、どこかの会場にしようか迷っている新郎新婦にも単なるハード面を見比べるのではなく、夢や憧れを形にできるウェディングプランを紹介し、暖かみのある接客ができる。我々プランナー自身もこのような手づくりのプランを作り、お客様に見て頂いてはどうかと検討しているところ。私たちが新郎新婦に提案することは、ビジネスとしての「作業」になっていたが、この心のこもった「ひと手間」が大切だと学生さんのピュアな気持ち(作品)に気づかされました』という貴重な意見を頂いた。若者の感性に触れ、また若者の生の意見を聞くことができ、今後のプランナーとしての仕事にも活かせるアイデアを学生の提案から感じて頂けたようで非常に有意義な試みであったと感じる。

学生たちも普段なかなか足を踏み入れる機会のない結婚式の現場を見学し、結婚式というものは多くの専門分野から、また多くの人々の協力によって成り立っているということを理解することができた。

このような点から少しではあるが、産学連携の成果を感じる事ができた。

また学生へのフィードバックとして、ホテルのプランナーの方からの感想をプリントし、各自に配布

した。実際に現場で結婚式をプロデュースしているプロのプランナーの方々からの意見は、学生たちにとっても大きな自信や励みになったようである。しかし、授業最終日の7月21日に提出したプランをホテルのプランナーの方に見て頂いたのは夏期休暇中で、学生へ評価をフィードバックしたのは後期授業が始まってからであった。後期は本授業がないためもっと早くに評価の内容を聞きたかったとの声も一部の学生からはあった。

半期授業の場合、作品の提出が最終授業という場合も多いと思われ、学生にとってはできるだけ早く評価を聞きたいというのもっともであり、今後の検討課題としていきたい。

5. 謝 辞

本授業は多くの方々の協力を得て実施することができた。リレー授業を担当して下さった森下貴代子講師、石野光洋講師、ブライダル施設見学を快くお受け下さり、学生のプランについて多くの感想を聞かせて下さった神戸メリケンパークオリентホテルの内匠陽子氏をはじめ、ウェディングプランナーの皆様にも厚くお礼申し上げます。

<リレー授業の風景>



ブライダルフラワー(ウェディングブーケ)



ブライダルフード(ウェディングケーキのデコレーション)



ブライダルビューティ(ハンドパック)



ブライダル施設見学(神戸メリケンパークオリエンタルホテル)

ピアスーパバイザーからのコメント>

学生の年代にとって関心の高いブライダルの知識を専門的かつ総合的に学び、さらにウェディングプランをまとめ、実際にこの仕事に携わる方の評価を受けるところまでを講義に盛り込んだ実践は画期的で、学生にとって将来の就職までイメージできる講義の報告である。紹介されたプロの文章からもブライダル産業に真剣に取り組む若者の姿が見え、新しい職種紹介でもある。

本報告は学生が強い興味を持って取り組み職業観を具体的に持てる点が意義深く、参考としたい。

(担当：児童教育学科 三木 麻子)